

| | | | |
|--------------------|---|----------|-----------|
| 大学名 | 大阪大学 | | |
| University | Osaka University | | |
| 外国人研究者 | 葛 靖 | | |
| Foreign Researcher | GE JING | | |
| 受入研究者 | 古川裕 | 職名 | 教授 |
| Research Advisor | Furukawa Yutaka | Position | Professor |
| 受入学部/研究科 | 言語文化研究科 | | |
| Faculty/Department | Graduate School of Language and Culture | | |

<外国人研究者プロフィール/Profile>

| | |
|----------------|--------------------------------------|
| 国籍 | 中国 |
| Nationality | China |
| 所属機関 | 北方工业大学日本語学科 |
| Affiliation | North China University of Technology |
| 現在の職名 | 講師 |
| Position | |
| 研究期間 | 2015年1月16日～3月22日 |
| Period of Stay | |
| 専攻分野 | 中国語学、日本語学 |
| Major Field | |



葛 靖

<外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report>

| |
|---|
| <p>①研究課題 / Theme of Research</p> |
| <p>「子供は子供だ」、「孩子是孩子」のような同じ単語が二回現れる同語反復構文は、日本語と中国語の両言語に存在し、いずれも文字通りの意味以外の表現意図がある。名詞以外に動詞、形容詞もこの構文に使えるが、今回の研究対象は名詞の場合だけとする。</p> <p>本研究は中国語の同語反復構文「N是N」との対照を手掛かりに、日本語の同語反復構文「NはNだ」を中心に、構文の成立条件と意味的機能を考察する。日本語の同語反復構文には二つのNの間に「は」のほか「が」、「も」も使用できるが、それぞれの成立条件が異なっている。本研究では、名詞Nの性質と構文最後の助詞(あるいは接続詞)の違いによる三つのパターンの成立状況を別々に考察する上で、それぞれの意味機能を分析する。最後に、三つのパターンに共通する同語反復構文の構文スキーマを見出す。</p> |
| <p>②研究概要 / Outline of Research</p> |
| <p>本研究では、「は」「が」「も」の違いにより、日本語のこの構文をそれぞれ「Aパターン」「Bパターン」「Cパターン」に分け、名詞と文末の助詞(あるいは接続詞)の違いで異なる成立状況と意味機能を考察する。</p> <p>最初に、日本語母語話者を対象にアンケート調査を行い、例文の成否判断と後続文の穴埋めをもらい、データを集計した。</p> <p>次にアンケート調査の結果に基づき、前もって収集したほかの例文と合わせて、Nの性質を二種類設定し、三つのパターンの成立状況と意味機能を考察した。</p> <p>さらに、同語反復構文が「だ」で終わらない場合も多いため、助詞別で三つのパターンの成立状況と意味機能を考察した。</p> <p>最後に、この三パターンの同語反復構文の意味機能が一つの構文スキーマ「Nの属性ないしは状態を確認する」にまとめた。</p> |
| <p>③研究成果 / Results of Research</p> |
| <p>一. 構文の成立状況</p> <p>1. 構文が「だ」で終わる場合: ①名詞成分NがそのNとの対比となる対象が容易に想起できる名詞であるなら、AとCパターンが成立し、Bパターンは成立しない。②Nに対して文脈による修飾成分がある場合は、Cパターンだけが成立し、AとBパターンは成立しない。</p> <p>2. 「だ」の位置に他の助詞が使われる場合: ①「で/だが」: AとCパターンが成立し、Bパターンは成立しない; ②「でも」: Aパターンが成立し、BとCパターンは成立しない; ③「だから/なら」: BとCパターンが成立し、Aパターンは成立しない。</p> <p>二. 構文の意味機能</p> <p>Aパターン: Nがほかの名詞と異なる公認属性を確認する。</p> <p>Bパターン: Nが特定の文脈における状態を確認する。なお、Nが後続文の結果を誘導する唯一な条件である</p> <p>Cパターン: Nが特定の文脈における状態を確認する。よく話者の不満な気持ちが含まれる。</p> |
| <p>④今後の計画 / Further Research Plan</p> |

今回の研究ではNの性質と後続助詞の違いで、日本語の同語反復構文の成立状況と意味機能を考察した。しかし、Nの性質と後続助詞の違い以外に、上下の文脈も文の成立に大きく影響を与える。今後は文脈も考慮に入れて、より厳密的に三パターンの成立状況を考察していきたい。

それに、今回の研究を通してA・B・C三パターンの意味機能を提示した。Cパターンには「よく話者の不満な気持ちが含まれる」という結論に結び付いたが、なぜ「不満な気持ち」が生じたのかがまだ未解明のままである。今後はその理由について追究していきたいと考えている。

また、今回の研究対象は、Nが名詞である場合に限ったが、今後形容詞と動詞も視野に入れて考察を行いたい。

<受入研究者からの報告/Research Advisor Report>

①研究課題 / Theme of Research

「子供は子供だ」、「孩子是孩子」のような同じ単語が二回現れる同語反復構文は、日本語と中国語の両言語に存在し、いずれも文字通りの意味以外の表現意図がある。名詞以外に動詞、形容詞もこの構文に使えるが、今回の研究対象は名詞の場合だけとする。

本研究は中国語の同語反復構文「N是N」との対照を手掛かりに、日本語の同語反復構文「NはNだ」を中心に、構文の成立条件と意味的機能を考察する。日本語の同語反復構文には二つのNの間に「は」のほか「が」、「も」も使用できるが、それぞれの成立条件が異なっている。本研究では、名詞Nの性質と構文最後の助詞(あるいは接続詞)の違いによる三つのパターンの成立状況を別々に考察する上で、それぞれの意味機能を分析する。最後に、三つのパターンに共通する同語反復構文の構文スキーマを見出す。

②研究概要 / Outline of Research

大阪大学言語文化研究科において開講している中国語学に関する演習および実習に参加させ、研究発表の機会を与えた。

まず、2015年1月28日の大学院ゼミにおいては、研究内容の概要と進捗状況、解決を待つ問題点などを中心に口頭発表をさせ、ゼミに参加している大学院生と共に議論を深めた。続いて、3月12日および19日の大学院生勉強会では、1月28日の発表を承けて、研究の進展について、口頭発表と討論を行った。

これらのゼミ発表を通じて、日本語の同語反復構文には幾つかのバリエーションが存在しており、名詞だけでなく形容詞や動詞など用言を反復させるタイプにも視野を広げるべきであると指導した。

③研究成果 / Results of Research

一. 構文の成立状況

反復される名詞の意味的な特徴が関与すること、格助詞「が」と係助詞「は/も」の使用が名詞反復構文の前句と後句のつながり方に関係することなどが明白になった。

二. 構文の意味機能

名詞反復構文には、実は様々なバリエーションが見られ、各タイプごとに独自の意味表現機能がある。その構文ごとの表現特徴を明らかにすると同時に、各変異を貫く統一的な意味特徴の双方に迫ることが出来た。

④今後の計画 / Further Research Plan

今後は、特に以下の2点に重点を置いて指導を継続してゆきたい。

- (1) 日本語における反復構文を広く観察し、名詞のみならず、動詞や形容詞、さらには小句などの反復パターンを研究対象にすること。
- (2) 日本語と同様に中国語にも存在する反復構文を対象として、中国語における構文研究を行い、日本語と中国語の対照研究を進めること。



古川教授ゼミ



古川教授、杉村教授、合同ゼミ